

平成26年度（2014年度） 神戸大学大学院
国際文化学研究科 博士課程（前期課程）

言語情報コミュニケーション系領域 言語コミュニケーションコース試験問題（専門科目）

（注） 問題用紙1枚 解答用紙2枚

次の問題Ⅰ～Ⅵから2題を選択して答えなさい。

（選択した問題番号を明記し、それぞれ別の答案用紙を用いること）

問題Ⅰ 日本語学習者の「レディネス」(readiness) には具体的にどのようなものが含まれているか述べなさい。また、学習者のレディネスを知ることによって日本語教育のコースデザインにどのような影響を与えるのかを述べなさい。

問題Ⅱ 他動詞の主語をA、他動詞の目的語をP、自動詞の主語をSとする。このA、P、Sを用いて以下の問に答えなさい。

問1 以下の(1)～(4)の格組織のパターンを説明しなさい。

(1) 対格型、 (2) 能格型、 (3) 中立型、 (4) 三立型

問2 日本語の「二格主語構文」の例を一つ挙げ、上記の(1)～(4)のどのパターンに属するか、必ず理由を付けて答えなさい。

問題Ⅲ 言葉でもって相手との心理的距離を縮める方法、及び広げる方法について、ポライトネスの観点から具体例を挙げながら説明しなさい。

問題Ⅳ 第二言語習得のプロセスには、「潜在的学習」(implicit learning) や「顕在的学習」(explicit learning) が関わる場合がある。潜在的学習と顕在的学習について説明するとともに、そのような学習プロセスが現れる具体的な例を、潜在的学習と顕在的学習のそれぞれについて挙げなさい。

問題Ⅴ 修辭的表現技法（レトリック）としての「撞着語法」(oxymoron) について、形式上の特徴・用法・表現効果を、具体的な例を挙げながら説明しなさい。

問題Ⅵ 現代的現象としての「重訳」(relay) にはどのようなものがあるかを述べて、それが果たしている役割と問題点について具体的に論じなさい。